



プログラム名	耳をすまそう、探してみよう！！						
対象年齢	年長（5～6歳）						
ねらい	メッセージ	生きものの不思議さや命の大切さに気づこう					
	発見・体感できること	<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な虫が生きていること ・虫を捕まえる工夫 ・虫を捕まえたときの感触 ・虫の鳴き声 ・虫の形 					
参加者のめやす	幼児 40人		／		支援者 4人		
実施時間	30分						
フィールド (実施場所)							
	森・社寺林・公園	山・里	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園	
実施可能時期							
自然を感じるためのヒント							
時間	活動			●配慮・アドバイス◎アレンジ			
5分	①5～6人のグループに分ける ②虫について話をする			◎子どもたちが虫に興味を持つように工夫しよう。 (例) 絵本を読んだり、昔話をしたりするなど ●子どもたちがどんな虫を知っているか聞いてみましょう。 ●事前に虫を捕っておいて、見本を見せましょう。			
10分	③虫探し ・約束事を聞く ・グループで探す  ▲虫探し コオロギがいるで、そつとな。			●虫とりはグループで協力して探すように伝えます。 ●生きものには優しく接するように声をかけます。 (例) 「みんなは手や足を引っ張られたら痛いよね。虫さんも手や足を引っ張られたら痛いんだよ。だから優しくしようね」 ●手で虫を触れない子に対しては、捕まえた虫を見たり、虫がごを持ったりして、活動が楽しめるように促しましょう。 ●集合する前に「もう少しで集まるよ」と声かけて、子どもたちが納得して集合できるようにします。			
5分	④捕った虫を数えたり、比べたりする ・種類・数						

時 間	活 動	●配慮・アドバイス◎アレンジ
5分	⑤ 図鑑で調べる  <p>虫のお腹が見えんで!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちが持っている図鑑に載っていない時は、グループごとにある大きい図鑑で調べるように声かけをします。 ● 支援者はグループをまわって、子どもの気づきに耳を傾け、他の子に紹介し、発見を共有しましょう。 ● 捕ってきた虫が掲載されている図鑑の箇所を紹介し、より親しみがもてるようにしましょう。 ● 普段見ることのできない角度（虫かごの底）などから虫を見てみましょう。
5分	⑥ 虫がどんなときに鳴くのか どんな方法で鳴くのか ・ グループで考える ・ 考えたことを試す  <p>コオロギの声初めて聞いた。</p> <p>・ 虫を還す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「虫はどんな声で鳴くんだろう？いつ鳴くんだろう？」などと問いかけをして、イメージを作ります。 ● 考える時間がない時は、支援者から提案するようにします。 ● 子どもたちから出た意見を大切に、試してみます。鳴かなかった場合は、夜に虫の声を聞いてみよう、気持ちが持続するように声をかけます。 （例）黒幕などをかけ、夜と同じ状態になるようにします。 ● 捕った虫は自然に還します。 ◎ 里山で「虫の声」や「手のひらに太陽を」などを歌うと、より自然に親しめます。 ◎ 虫を持ち帰る際は、飼育方法などを考えたり環境を整えるなどの話し合いをしましょう。
【異年齢への対応】 ◆ 0・1・2 歳児： ・ 虫の声を聞きましょう。 ・ 虫の歌を歌いましょう。 ・ 跳ねる虫を追いかけたり、目で追ったりしましょう。 ・ 絵本などを使って、虫に興味を持ちましょう。 ◆ 年少： ・ 小グループに分かれ、グループに支援者がついて、同じ遊びをしてみましょう。 ・ 虫になりきってみましょう。 ・ 虫の絵本を読みましょう。（例）「だんまりこころぎ」作・絵：エリック・カールソンなど		
【園や家庭に帰ってから】 ◆ 捕ってきた虫を実際に飼ってみましょう。 ◆ 飼育するには何が必要か、調べてみましょう。 ◆ 図鑑で生態を調べてみましょう。 ◆ 虫の卵を見つけたら、孵化させてみましょう。		
準備物・教材等	・ 図鑑 大（グループ数） 図鑑 小（人数分） ・ 観察ケース（グループ数） ・ 笛	